

# 沿線 散歩

東上沿線物語別冊

さんぽ



周防 洋

定価300円（税込）

## 東上沿線物語別冊・沿線散歩目次

①寄居・玉淀周辺	—3	⑩武蔵嵐山	—12
②上福岡・ココネ上福岡	—4	⑪板橋区大山・ハッピーロード	—13
③下赤塚・赤塚周辺	—5	⑫越生・越生梅林	—14
④みずほ台・水子	—6	⑬柳瀬川・志木ニュータウン	—15
⑤小川町	—7	⑭坂戸・浅羽ピオトープ	—16
⑥東松山・箭弓稲荷	—8	⑮和光・樹林公園	—17
⑦池袋・エチカ池袋	—9		
⑧志木・引又宿跡	—10		
⑨川越・大正浪漫夢通り	—11		

周防 洋 (すおう・よう)

大手新聞記者。地域ジャーナリスト。志木市在住。

## ①寄居・玉淀周辺

「沿線散歩」を終着駅付近から始める。休日、筆者の東京への通勤の起点である柳瀬川駅から寄居駅まで行き、「玉淀（たまよど）」と「鉢形（はちがた）城跡」を歩いた。

玉淀まで約10分。川原に下りて、静かに流れる荒川と、対岸の崖の上にある鉢形城跡の森を眺めた。川原にはバーベキューを楽しむ人、川の中には釣り人や水遊びをする人の姿があった。

玉淀とは、「玉のように美しい川のおよみ」との意味で、荒川が秩父山地から平野部に流れ出る際によどみができたという。昭和10年に県の名勝に指定され、文豪の田山花袋は紀行文「秩父の山裾」の中で、「東京付近でこれほど雄大な眺めを

「これほど雄大な眺めを持った  
峡谷は他にない」（田山花袋）

持った峡谷は他にない」と激賞した。ややオーバーな表現かな、と思いつつ、

そばの正喜橋を渡ると、そこは鉢形城跡の一部だ。荒川とそれに合流する



玉淀川原から鉢形城跡を望む

深沢川に挟まれた断崖の上に築かれた城——砦（とりで）のイメージに近い——で、1590年（天正18年）の秀吉の小田原攻めの際に、攻められた側の後北条氏の拠点の一つだった。

前田利家らに包囲されて1カ月余り籠城したのち、城主の北条氏邦（うじくに）は、城兵の助命を条件に城を明け渡した話は有名なようだ。

97年から01年までの発掘調査のあと、鉢形城公園として整備された。史跡は24万平方メートルに及ぶ。歩くと、規模の大きさを実感する。

「秩父曲輪」（ちちぶくるわ）——曲輪は、城

の中の石や土塁、堀で囲った区域のこと。ここは重臣、秩父孫次郎が守った——と伝えられる場所で、

復原された四阿（あずま）から、庭園跡や石積み土塁を見渡す。ここで宴を張ったのかも。鉢形城歴史館（04年10月開館）で得たばかりの知識をもとに往時に思いを馳せる。

城の中心部の「本曲輪」には、武者小路実篤の筆になる、花袋の漢詩碑がある。「襟帯山河好 雄視関八州 古城跡空在 一水尚東流」。帰宅して辞書を引くと、襟帯は、山河に取り囲まれた要害とある。要害を囲む山河は好（うつく）しく、ここから雄然と関東一円にらみをかした。その古城の跡はむなしだが、そばには一筋の川が、往時と同様に静かに東に流れている——。確かにここからの眺めは詩情豊かで、雄大に見えてきた。

## ②上福岡・ココネ上福岡

刻を設置するなど、工夫している。

駅前再開発で風景が一変する街が東上線沿線で増えている。ふじみ野市

設、各種医療機関、駐車場などが入っている。ココネ(cocone)という愛称は、旧上福岡

夜、訪ねると、超高層ビル屋上のオブジェは照明があてられ、幻想的に

見える。一方、中層の施設棟の壁面を垂直に貫く11本の投光器によるカラフルな夜間照明も目を引く(午後11時頃まで)。現代的なにぎやかさを演

出するものだ。

照明は毎月のテーマと色が決めてあり、12分間の静的な照明のあと、2、3分の動的な演出が続く。演出は、月ごとの季節性の高いものと、年間を通じたものがあり、後者は、電車が駅に近づいてスピードを落としていき、停車、そして数秒後に動き出すといったイメージである。

上福岡駅周辺は、昭和30年代に、東洋一といわれた2つの日本住宅公団(現在の都市再生機構)の団地ができ、人口が急増した。その一つの霞ヶ丘団地(約1800戸)の一部はこの再開発地区にあった。団地は建て替えられ、大部分はUR賃貸住宅「コンフォール霞ヶ丘」に生まれ変わっている。民間マンションや芝生広場などの公園になった部分もある。ココネ上福岡の北側周辺を歩くと、こうした変貌ぶりに触れ

再開発はUR都市機構(独立行政法人、都市再生機構)の施行で、区域は2・6ヘクタール。超高層ビルは、UR賃貸住宅237戸。このほか3棟あり、食品スーパーのヤオコーをはじめとした物販、飲食・サービスの店舗・施設(約30)、市役所出張所や子育て支援施設

## 舟運の栄華、昔をしのぶオブジェも目をひく

には帆をイメージした彫



ココネ上福岡(昼)

られる。